

IR 室長メッセージ

九州大学インスティテューショナル・リサーチ室 (IR 室) は、エビデンスに基づいた大学の改革・改善を支援する組織として、平成 28 年 4 月に設置されました。それまでは、「国立大学法人評価」や「大学機関別認証評価」等の大学の諸活動の自己点検・評価業務を中心とする大学評価情報室として活動してきましたが、自己点検・評価の結果を分析し、数値指標やエビデンスを伴った定性的な指標に基づいて、大学の運営や経営を戦略的にマネジメントできるガバナンス体制の充実を支援する目的で、総長のリーダーシップの下に、発展的改組により設置されました。

国立大学法人ガバナンス・コードや第 4 期中期目標期間における国立大学法人中期目標大綱においても、エビデンスによる意思決定・法人経営が重要視されており、エビデンス、すなわち「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」に基づいて改革・改善の方針を示すことによって、大学の構成員がその必要性を共通に理解でき、合意形成も進むと考えられます。このような観点から、IR 室の最も重要な業務の一つは、「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」を集積することです。

これまで大学の各部署には、多種多様で膨大な数のデータが蓄積されてきましたが、それは担当部署（時には担当者）が最も収集しやすい形、利用しやすい形、あるいは提出先の要求に沿う形などで集積されたものでした。さらには、同じ種類の同じ期間を対象にしたデータであっても、データの定義が異なる場合も少なくありません。このような状況下では、単にデータの提供元から IR 室が収集しただけでは、「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」にはなり得ません。IR 室では、各部署の尽力のもとで、学内に散在するデータを「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」にするべく集積を実施してきました。一方で、データの情報公開には格段の留意が求められます。この点についても、公開範囲の区分を精査し、データの集積元とも協議をしながら区分けを進めてきました。

この「KYUSHU UNIVERSITY FACT BOOK 2021」は、集積したデータを活用し、大学や各部署等の現状を把握し、改革・改善や将来計画策定に利用していただくことを目的に作成しています。データを「経年」で表現することで、本学の「これまで」を読み取り、その上で「この先」をある程度推測することが可能となっています。本学の研究力分析の一例も掲載しており、本学で導入している研究力分析ツール「SciVal」や研究者プロファイリングツール「Pure」も合わせてご活用いただければと思います。さらに、本学は指定国立大学法人として「総合知で社会変革を牽引する大学」を目指しており、その実現のための戦略と取組の中で各種成果指標 (KPI) を掲げており、それらを確認することも可能となっています。

また本書は、IR 室 Web サイト (<https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/>) 上で PDF 版及び Interactive 版として公開しています。中でも Interactive 版は、随時データを更新し、さらには利用者が必要な情報だけを選択・表示することが可能となっておりますので、是非ご活用ください。

本書は Web 上で公開し、九州大学の構成員はもとより、学外から九州大学を支えていただいているステークホルダーの皆様にも、九州大学の現状をご覧いただけるようになっていきます。今後 IR 室がなすべき評価と改革・改善支援の機能を充実させるためにも、皆様方からのご協力とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和 3 年 11 月 IR 室長

久取良雄